

## 小銅鐸 — 青木原遺跡出土 —

作られた当時の青銅器は、黄金色に光り輝いていました。青木原遺跡で出土した小銅鐸は、弥生・古墳時代の人々を魅了した輝きを今に伝えています。

### 小銅鐸とは

小銅鐸とは、朝鮮式小銅鐸（いわゆる銅鐸の祖型と考えられている）とその系統に属する品及び、銅鐸の小型品・模倣品を総称する語として使われています。分布は九州から関東に及び、住居跡や墓から出土する例が多いのが特徴です。静岡県内では青木原遺跡以外に、伊場遺跡（浜松市）、愛野向山Ⅱ遺跡（袋井市）、有東遺跡（静岡市駿河区）、陣ヶ沢遺跡（富士市）、関峯遺跡（沼津市）の出土例があります。

### 青木原小銅鐸

青木原遺跡出土小銅鐸は、高さ12.6cm、裾部最大幅6.9cm、裾部短径幅3.9cmで、鈕から裾部下端まで連続して鱗が作られており、鐸身外面には横位の綾杉文の文様帯が1条、鐸身内面には断面蒲鋒形の突帯が1条巡らされており、鈕には5条の突帯が表現されています。

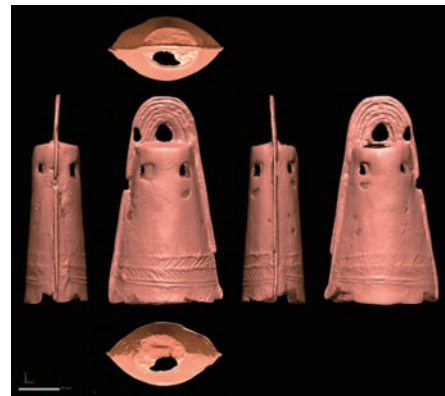
こうした形態的な特徴から、青木原小銅鐸は突線紐式銅鐸の小型品・模倣品と



青木原小銅鐸

考えられ、一般的な小銅鐸及び他の県内出土例とは一線を画す存在といえます。また、鐸身内面に突帯が巡らされていることから、音を鳴らす意図があったものとみられます。

参考文献：  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
2011 『青木原遺跡Ⅱ』



小銅鐸の三次元画像（色彩を再現）

### 青木原遺跡（あおきばらいせき）

青木原遺跡は三島市南二日町に所在します。小銅鐸は平成21年度に実施した御殿川河川改良工事に伴う発掘調査で出土しました。御殿川は過去に何度も流路を変化させており、小銅鐸が出土した地点も御殿川旧河道の砂礫層中でした。



小銅鐸の出土状況

### 輝きを残すために

ほとんどの銅製品は緑色をしています。これは銅の表面に緑青（塩基性炭酸銅）が生成するためです。大気中では、銅は緑青で覆われた状態が安定した状態ですので、ほとんどの銅製品は緑青で覆われた緑色をした状態となっています。旧河道の砂礫層中から出土した青木原小銅鐸は、極端に酸素が欠乏した状態であったと考えられ、緑青は全く生成していませんでした。そのため出土時点の色調を変化させないように、取上げ後からアルコールに浸漬して保管し、保存処理では表面を傷つけないように土砂や汚れを除去し、最低限の強化処理を施した後

は、真空状態を保った容器内で保管をしています。容器内には念のために脱酸素材も封入してあります。外気と遮断した状態で保管してありますので、小銅鐸の色調は変化することなく維持されています。



保存処理作業（土砂等の除去）



現在の保管状況